伊地知文庫
文庫20
70

文庫20
70

萱草第一

伊地知氏書冊

春連歌

四月朔日の得吟

蔵書

落花を

秋連句

西方報会の行事終りて後一二度よ
まうしあはせ侍りける頃
おつまゝに時雨降る風もなき
をちこちに鳴くや小鹿の初音
おのづから折しも秋の暮れ
風とともにおさむる松の蔭
不二のねのうちつゞく峰の
雲よりもうし桐はまだうつる
動とてや今日の風のき物
七夕の昔のうきを思ひ
川会れやせん三日の一夜つま
行会法楽七夕
秋の雨と
ぬれそふ月と
吾妻へうし附むさしの風
そよ人こそ
雨の起臥
むさし野の
松向ひや

萱草芽生
冬連根

壹華弁五

寒達教

雪の上今の内